

平成二十八年度版
消防年報

平成28年度版

消防年報



霧島市消防局

鹿児島県霧島市国分中央三丁目41-5
〒899-4332 TEL (0995) 64 - 0119
FAX (0995) 64 - 0845

霧島市消防局



霧島市消防局

全国統一防火標語一覧

昭和44年度 今捨てたタバコの温度が700度
昭和45年度 防火三百六十五日
昭和46年度 いま、燃えようとしている火がある
昭和47年度 慣れた火に新たな注意
昭和48年度 隣にも声かけあってよい防火
昭和49年度 生活の一部にしよう火の点検
昭和50年度 幸せを明日につなぐ火の始末
昭和51年度 火災は人災防ぐはあなた
昭和52年度 使う火を消すまで離すな目と心
昭和53年度 それぞれの持場で生かせ火の用心
昭和54年度 これくらいと思う油断を火が狙う
昭和55年度 あなたです！火事を出すのも防ぐのも
昭和56年度 毎日が防火デーですほくの家
昭和57年度 火の用心 心で用心 目で用心
昭和58年度 点検は防火のはじまりしめくり
昭和59年度 “あとで”より“いま”が大切火の始末
昭和60年度 怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」
昭和61年度 防火の大役あなたが主役
昭和62年度 消えたかな！気になるあの火もう一度
昭和63年度 その火 その時 すぐ始末
平成元年度 おとなりにあげる安心火の始末
平成2年度 まず消そう 火への鈍感 無関心
平成3年度 毎日が 火の元警報 発令中
平成4年度 点検を重ねて築く“火災ゼロ”
平成5年度 防火の輪 つなげて広げて なくす火事
平成6年度 安心の 暮らしの中心 火の用心
平成7年度 災害に 備えて日頃の 火の用心
平成8年度 便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ
平成9年度 つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火
平成10年度 気をつけて はじめはすべて ちいさな火
平成11年度 あぶないよ ひとりぼっちにした その火
平成12年度 火をつけた あなたの責任 最後まで
平成13年度 たしかめて 火を消してから 次のこと
平成14年度 消す心 置いてください 火のそばに
平成15年度 その油断 火から炎へ 災いへ
平成16年度 火は消した？ いつも心に きいてみて
平成17年度 あなたです 火のあるくらしの 見はり役
平成18年度 消さないで あなたの心の 注意の火
平成19年度 火は見てる あなたが離れる その時を
平成20年度 火のしまつ 君がしなくて 誰がする
平成21年度 消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子
平成22年度 「消したかな」 あなたを守る 合言葉
平成23年度 消したはず 決めつけしないで もう一度
平成24年度 消すまでは 出ない行かない 離れない
平成25年度 消すまでは 心の警報 ONのまま
平成26年度 もういいかい 火を消すまでは まあだだよ
平成27年度 無防備な 心に火災が かくれんぼ
平成28年度 消しましょう その火その時 その場所で

平成29年度 火の用心 ことばを形に 習慣に

表紙の説明【敷根火薬製造所跡 第一水車口】～当時水車を回していた高橋川の水が、今も勢いよく流れ出ています～

敷根火薬製造所は、島津齊彬が推し進めた集成館事業の一環として、文久3（1863）年に薩摩藩が設立した、当時としては国内最新・最大の火薬工場でした。

導水路により高橋川の水を引き込み、のべ8基（推定）の水車動力を駆使して石臼を動かし、原料を粉碎して年間24トンの火薬を生産していたとされています。

廃藩置県後の明治5（1872）年には政府管轄の工場となりますが、明治10（1877）年3月10日、西南戦争において西郷軍への弾薬補給分断のため、政府軍によって焼き払われてしまいます。日本の近代化に大きく貢献した施設でしたが、わずか14年で幕を閉じてしまいました。

製造所跡地は、その多くが水田となっていますが、当時のものと考えられる石垣があちこちに残っており、水車への導水路の一部は、農業用水路として現在も利用されています。

平成27年・28年には近代化産業遺産調査の一環として県立埋蔵文化財センター（霧島市）で一部の発掘調査を行い、埋もれていた石垣、水車への導水路や落水口、原料粉碎用と考えられる石臼などが確認されています。